



こどもをまんやかに置いた議論を

戸谷 ひとみ 議員

どうなる和牛繁殖経営

熊谷 兼樹 議員



Q 奥出雲和牛ブランドの評価を

和牛繁殖経営の厳しい経営環境は2年以上に及んでいる。
そのさなかの令和4年6月、JA島根が唐突に発した肥育事業からの全面撤退は、和牛繁殖経営に大きな衝撃を与え、将来への不安を抱かせている。
JA雲南と、雲南地域1市2町で築いてきた奥出雲和牛ブランドは、本町にとって大きな財産であるはずだ。奥出雲和牛ブランドの評価を確認したい。



A 継続して振興

町長塚原隆昭

雲南管内での一貫生産体制による効果として、肥育された奥出雲和牛の産肉データーが繁殖農家にフィードバックされ、繁殖基盤の強化、所得向上につながっている。
本町では、ふるさと納税の返礼品の87%を占めており、非常に重要な地域資源と考えている。今後も継続して振興していく。

Q 具体的な振興策は

雲南地域和牛振興ビジョンが、令和6年から10年間示されている。
本町の具体的な振興策を問う。

A リース牛舎建設で若者育成

町長塚原隆昭

本町としては、優良繁殖雌牛の保留事業による繁殖基盤の強化に加え、今後は、リース牛舎等の建設による若手農家の育成、和牛改良組合や大規模酪農農場と連携して畜産振興を図りたい。

Q 中学校部活動の地域移行

どう取り組む

中学校部活動の地域移行について、本町ではあまり話題になっていない。
令和5年から7年が移行推進期間になっているが、その目的は何か。本町では今、どのような段階にあるのか。

最終的に地域移行ができない場合、教職員による部活動の指導は継続できるのか。

A 実態把握に努める

教育長 大谷哲也

目的は「地域の持続可能な多様な環境の一体的な整備により、地域の実情に応じ、スポーツ・文化・芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消すること」(文科省ガイドライン)を目指すとしている。
部活動地域移行に向け課題など実態把握に努めていく。
教職員による指導継続は、県の教職員に関する兼職兼業の取り扱い次第だ。

Q 子どもたちの安全が第一では

安全が第一では

志々小学校校舎の耐震診断が出るまで待てない、今行かせることすら心配だという声がある。

安全性を示したデータがないと不安というのは当然だ。耐震改修がされておらず、老朽化が進み、早急に対策を講じる必要があるのに対策されていない校舎を使うのかを、小学校の統廃合とは分けて考えるべき。

全国各地で大規模地震が頻発し、いつどこで発生してもおかしくないため、一刻も早く今の校舎の使用をやめるべきだ。子どもたちの安全を第一に考えてはいかがか。

A 耐震診断の結果をうけ判断

結果をうけ判断

町長塚原隆昭

劣化度調査や長寿命化計画で、校舎の老朽化が激しく、早期の対応が必要となっていることはもちろん承知しているが、代替の施設利用は考えていない。

今実施している耐震診断では、最終的に校舎の補強対策についても検討され、必要な対策工法なども提案される。

2月に専門家による判定委員会が出す審査結果を確認した上で最終判断したい。校舎利用を今すぐやめるといふ考えは持っていない。



志々小学校視察

Q 保育所運営

早期見直しを

保育所4カ所とも老朽化が進み、保育士の不足も埋まらない。ギリギリのところで日々の保育をしており、余裕のある環境が作れない状態。1カ所でも統合すれば職員数の余裕ができ、子育て支援の範囲拡大にもつながるといふ意見がある。

一方で、保育所が統合したら小学校も統合になるから、今は議論すべきではないという意見もあるが、私の故郷は、保育所1つ、小学校3つ、中学校1つで、このようなケースはほかの地域にもある。

建物の状態や立地条件に心配がある状態を放置せず、保育の中身や、安心して子育てできる持続可能な保育所運営を重視し、小学校の統廃合とは分けて議論を始めてはどうか。

A 現状では困難

町長塚原隆昭

保育所を取り巻く状況を検証し、運営の在り方を検討することは当然必要だが、小学校の統合と切り離れた議論は難しいのではないかと考えている。

